様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ３０ 日現在

機関番号：８４６０３
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１２２５４

研究課題名（和文）仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究―三尺阿弥陀を中心に―

研究課題名（英文）Basic Study on the Buddhist Sculptor Kaikei's Production Methods and Division of Labor at His Workshop, Focusing Chiefly on Sanjaku Amida

研究代表者
山口　隆介（YAMAGUCHI, Ryusuke）

独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・主任研究員

研究者番号：１０６２３５５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では快慶銘を有する三尺阿弥陀に注目し、高精細デジタルカメラによる撮影やＸ線ＣＴスキャン調査を網羅的に実施して基礎資料をおおむね整えることができた。そのうえでＣＴデータの分析から木取りおよび木寄せ方法の特色を抽出し、像の体側に沿って垂下する左腕を体幹部材から割矧ぐ手法や両肩以下を割矧ぐ手法が用いられていることを確認するとともに、こうした合理的な造法には快慶工房における需要の増加にともなう制作技法上の進展を想定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
快慶が生涯をかけて追求した三尺阿弥陀は、形式や作風が次第に変化したのみならず、制作技法においても進化を遂げていたことが本研究により明らかとなった。快慶芸術を支えた制作技法上の進展や、そこから浮かび上がる工房制作の実態は、今後さらにＣＴ調査の成果を丹念に読み解いてゆくことでより明瞭にとらえることが可能となり、彫刻史研究において新機軸を拓くことが期待される。本研究の成果は令和5年（2023）3月に奈良国立博物館編『仏師快慶の研究』として思文閣出版より刊行し、最新の情報を広く世に公表した。

研究成果の概要（英文）：This study focused on a three-shaku (approx.90 cm) Amida statue attributed by inscription to Kaikei, making use of high-resolution digital photography and x-ray CT scanning to create new knowledge into the operations of Kaikei's workshop. After preparing resources for the study of the image through photography and CT scan imaging, we analyzed the data we had gathered for a close material study of the wood comprising the statue. We could identify with great precision from what part of the wood the statue's component blocks were carved and how these blocks were assembled, in turn revealing that some of the wood removed in hollowing out the larger block designated for the statue's trunk was set aside for use in carving the statue's left arm, and the head and neck of the statue were fitted into the trunk's cavity at joins running down from the shoulders. We presume that such efficiencies of production were developed by Kaikei's workshop to keep up with the rising demand for his statues.

研究分野：日本彫刻史

キーワード：快慶　三尺阿弥陀　工房制作　分業体制　X線CTスキャン調査

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

仏師快慶（？～1227 以前）は、運慶（？～1223）とともに鎌倉時代彫刻の新様式の完成に重要な役割を果たした人物のひとりである。快慶には銘記等によって彼の作と確認できる遺品がきわだって多く、鎌倉時代初期の造像界の動向を具体的に知るうえで不可欠な存在である一方、出自や工房などその人物像や活動には不明な点が少なくない。

現在、銘記等から快慶作と判明する像高三尺（約 90 センチメートル）前後の来迎印を結ぶ阿弥陀如来立像（三尺阿弥陀）および同大の如来立像は、奈良・東大寺像など 16 軀が確認されているが、それらを通覧すると同一作家の手による統一性よりも、むしろ作風や出来栄えのばらつきが意外なほどに大きいことに気づかれる。そして私見によれば、作風や出来栄えの幅は晩年にいたるにつれて次第に顕著になるようだ。快慶作品に「髪万阿弥陀仏」（東京芸術大学大日如来像像内頸部墨書）や「御眼巧匠円阿弥陀仏」（京都・醍醐寺不動明王像像内頭部墨書）などの人名がみられる点は、快慶工房において分業による仏像制作がおこなわれていたことを端的にしめしており、三尺阿弥陀の制作に際しても需要の拡大にともない工房組織の拡充と分業体制の確立が図られたと考えられるが、その実態はほとんどわかっていない。

２．研究の目的

快慶による工房制作と分業体制の実態を明らかにするためには、個々の作品の形状、作風、構造、表面仕上げ、像内納入品など多角的な視点からの分析が不可欠である。その基礎的な研究と位置づけた本研究では、快慶が生涯に数多く制作した三尺阿弥陀および無銘記の「安阿弥様」阿弥陀如来像に快慶作の小ぶりの立像作品をくわえ、実査をはじめ高精細デジタルカメラやＸ線ＣＴスキャン装置を用いた多角的な調査をおこなう。

３．研究の方法

快慶による工房制作と分業体制の実態を明らかにするための基礎的な研究として、以下の作業をおこなう。

①作品の実査および高精細デジタルカメラを用いて撮影した写真にもとづく形式・作風の比較検討

②Ｘ線ＣＴスキャン調査による構造把握および木取り・木寄せ方法の分析、像内納入品の員数および形状の確認

③近赤外線カメラをもちいた切金文様の撮影と、撮影画像にもとづく形式分類

４．研究成果

快慶作の三尺阿弥陀のほぼすべて（和歌山・光臺院像と同・遍照光院像をのぞく）と無銘記の「安阿弥様」阿弥陀如来像の重要作品について、高精細デジタルカメラによる撮影やＸ線ＣＴスキャン調査を実施して基礎資料をおおむね整えることができた。そのうえでＣＴデータから構造を詳細に把握するとともに木取りや木寄せの方法を分析し、像の体側に沿って垂下する左腕を体幹部材から割矧ぐ手法や両肩以下を割矧ぐ手法が用いられていることを確認し、こうした合理的な造法については快慶工房における需要の増加にともなう制作技法上の進展を想定した。本研究により得られたさまざまな知見や各種画像は、令和５年

（2023）3 月に刊行した奈良国立博物館編『仏師快慶の研究』（思文閣出版発行）において公表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 山口隆介	４．巻 119
２．論文標題 尾添区阿弥陀如来立像	５．発行年 2021年
３．雑誌名 奈良国立博物館だより	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山口隆介	４．巻 26
２．論文標題 出光美術館所蔵（興福寺旧蔵）の地蔵菩薩立像について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 出光美術館研究紀要	６．最初と最後の頁 157,176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山口隆介	４．巻 23
２．論文標題 兵庫・浄土寺裸形阿弥陀如来立像	５．発行年 2021年
３．雑誌名 鹿園雑集	６．最初と最後の頁 23,44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山口隆介	４．巻 -
２．論文標題 藤田美術館所蔵「安阿弥様」二作品のＸ線ＣＴスキャン調査報告	５．発行年 2019年
３．雑誌名 国宝の殿堂　藤田美術館展（奈良国立博物館特別展図録）	６．最初と最後の頁 95,97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山口隆介	４．巻 -
２．論文標題 三重・安楽寺所蔵「安阿弥様」二作品のＸ線ＣＴスキャン調査報告	５．発行年 2019年
３．雑誌名 三重の仏像 ～白鳳仏から円空まで～（三重県総合博物館特別展図録）	６．最初と最後の頁 93,98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山口隆介・宮崎幹子	４．巻 676
２．論文標題 明治時代の興福寺における仏像の移動と現所在地について―興福寺所蔵の古写真をもちいた史料学的研究―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 MUSEUM	６．最初と最後の頁 5,57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山口隆介	４．巻 45
２．論文標題 快慶と工房制作―快慶展の知見をふまえて―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 公益財団法人仏教美術研究上野記念財団研究報告書	６．最初と最後の頁 13,24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 山口隆介
２．発表標題 快慶研究最前線―阿弥陀如来像を中心に―
３．学会等名 人文研アカデミー2022シンポジウム「日本古代中世の仏像彫刻―阿弥陀如来の変容をさぐる―」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 山口隆介
２．発表標題 快慶と阿弥陀仏造像
３．学会等名 京都大学人文科学研究所「東アジアにおける阿弥陀如来の表象」班研究討論会 「日本の仏教彫刻　作品生成の場」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 山口隆介
２．発表標題 快慶と工房制作―快慶展の知見をふまえて―
３．学会等名 研究発表と座談会 仏師とその工房をめぐる諸問題（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 奈良国立博物館	４．発行年 2023年
２．出版社 思文閣出版	５．総ページ数 606
３．書名 仏師快慶の研究	

１．著者名 水野敬三郎ほか編（分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 中央公論美術出版	５．総ページ数 317
３．書名 日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代造像銘記篇第16巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関